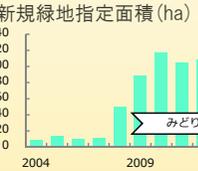


水とみどり まとまりあるみどりの保全や水辺拠点の整備を推進

横浜みどりアップ計画に基づき、緑地保全制度による緑地指定や地域主体での緑のまちづくりなど緑の保全・創造を進めました。また、雨水浸透ます設置などによる良好な水循環の再生に向けた取組や、市民が憩い、活動の場となる水辺拠点の整備を進めました。



緑地保全制度により指定された樹林地
多自然川づくり



4年で328.4 ha指定
みどりアップ計画期間

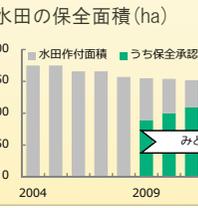
- ＜主な取組＞
- 緑地保全制度による緑地指定
 - 都心臨海部の緑花による賑わいづくり
 - 水辺拠点の整備、多自然川づくりの推進など

食と農 水田の保全や農とふれあう場づくりを推進

横浜みどりアップ計画に基づく水田の保全承認などにより横浜に残る貴重な水田景観が保全されました。また、収穫体験農園の開設や農体験講座の開催などにより、市民が農とふれあう場が増えました。



保全された水田



119.8 ha (2017年度末)
みどりアップ計画期間

- ＜主な取組＞
- 水田の保全承認
 - 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設
 - 横浜型担い手の認定・支援
 - 市民が農を楽しむ支援する取組の推進など

資源循環 2017年度横浜市のゴミ総排出量5.3%減少(2009年度比)

ヨコハマ3R夢プランに基づく取組を進め、人口が増加傾向にありながらも、ゴミの総排出量が減少しました。また、産業廃棄物発生量は微減傾向となっています。



収穫体験を通じた食品ロス削減の啓発



5.3%減

- ＜主な取組＞
- 3R行動の実践に向けた広報・啓発
 - 事業者による減量化と分別徹底を指導
 - 産業廃棄物の自主管理計画の策定指導など

生活環境 PM2.5の測定体制が充実し全20測定地点で環境基準に適合(2016-2017年度)

環境法令に基づく事業者への指導などにより環境負荷の低減に取り組み、横浜の大気や河川・海の水質などの環境の状況は長期的に見て改善傾向となっています。



PM2.5自動測定機

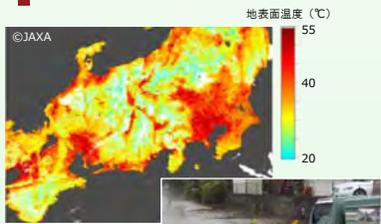


全測定地点適合

- ＜主な取組＞
- 常時監視の実施：大気や水環境などの状況把握
 - 事業場等への規制指導：届出指導、立入調査の実施
 - 化学物質対策：届出指導の実施、講座の開催
 - 騒音・振動対策：事業場等への指導、市民相談対応など

未来のために、今できること

気候変動の影響への適応策



▲気候変動観測衛星「しきさい」の観測による日本の酷暑の様子(2018年8月1日)
▲越水した水路(2014年台風18号、旭区)

2018年の夏は記録的な猛暑が続き、横浜でも7月23日に7月として観測史上最高気温(37.2℃)を観測しました。大型台風の発生や局地的な大雨の増加傾向などがみられており、気候変動の影響を実感する機会は確実に増えてきていると言えます。

横浜市では、緑陰の形成などによる夏の「暑さをしのげる環境づくり」や、大雨への備えの一つとして「浸水(洪水・内水)ハザードマップ」を作成・配布するなど、気候変動の影響への対応も進めています。



いざ！というときに備えて、浸水(洪水・内水)ハザードマップをチェックしよう！
横浜市 防災の地図 検索
※「防災の地図」のウェブページの風水害の項目にあります。

次世代へつなぐ豊かな海づくり



▲赤潮により赤褐色に变色した東京湾(本牧水質測定局付近)
▲野島海岸での調査で採取されたマイクロプラスチック

横浜市が面する東京湾の水質は、下水道の普及等により改善傾向が見られますが、依然として夏季には赤潮の発生が見られています。横浜市では、さらなる水質改善に向け、下水道の高度処理などの取組を進めています。

近年では国際的に海洋プラスチックの問題が注目されています。横浜市中でも沿岸におけるマイクロプラスチック*の存在状況調査などのプラスチック対策を始めています。



今、一人ひとりにできることを考えてみよう！

*マイクロプラスチックとは？
5mm以下の小さなプラスチック粒子。プラスチック製品の原料、スクラップ等に使われる粒子、海や川に流れ込んだプラスチックが紫外線による劣化で細くなったものなど。

環境管理計画や年次報告書、市民意識調査の詳しい情報はウェブページで！

横浜市環境管理計画 検索
環境管理計画や環境管理計画年次報告書の冊子は、市庁舎1階市民情報センター、各区役所広報相談係、各市立図書館でもご覧いただけます。

未来につなげる環境づくり

2018年版横浜市環境管理計画 年次報告書(概要版)
- 2014~2017年度(4か年)の取組状況 -

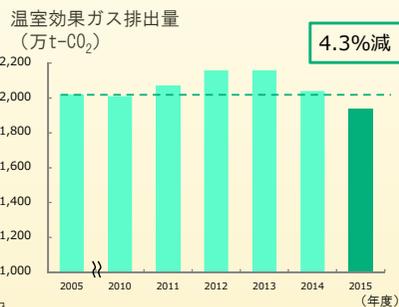


「横浜市環境管理計画」は条例に基づき策定している環境分野の総合計画です。環境管理計画(2014~2017年度)では総合的な視点による3つの基本政策と地球温暖化対策や生物多様性などの環境側面からの6つの基本施策を掲げて、横浜が目指す将来の環境の姿の実現に向け、環境政策を総合的・横断的に推進してきました。

年次報告書では、環境管理計画の推進状況や横浜の環境の状況をまとめています。これまでの成果を発展させ、今後も様々な主体と連携しながら取組を進めます。

地球温暖化対策 2015年度横浜市の
温室効果ガス排出量 **4.3%削減** (2005年度比)

市民や事業者の省エネの取組や次世代自動車の普及などにより、市内の温室効果ガス排出量は2013年度をピークに減少しています。

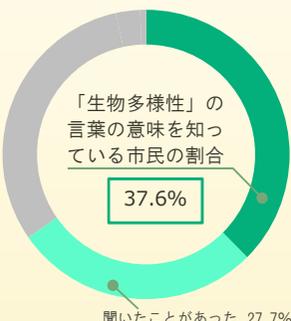


- <主な取組>
- 横浜スマートシティプロジェクトの展開
 - 住宅・建築物の省エネルギー化
 - 水素の利活用（次世代自動車の普及促進）
 - ヨコハマ・エコ・スクールの展開による普及啓発
 - 公共施設における再生可能エネルギーの導入など



生物多様性 身近な自然や生き物とふれあう機会の創出と、
生き物の生息・生育環境の保全を推進

生物多様性に関心を持ち、考えてもらうきっかけとなる講座などの開催や、多様な生き物の生息環境となる水辺や樹林地等の保全・再生・創造を推進しました。また、動物園などにおける希少野生動物の保全・繁殖に取り組みました。さらに、みなとみらい21地区のまちづくりや海づくり活動など、企業、市民団体等と連携した取組を進めました。



聞いたことがあった 27.7%

- <主な取組>
- 環境教育出前講座（生物多様性でYES!）実施
 - 多様な生き物を育む場づくり（アユが遡上する川づくり）
 - 希少野生動物の保全・繁殖の取組の推進
 - 生物生息状況モニタリング調査
 - 企業、市民団体等と連携したアマモ場形成等の海づくり など



**横浜の各地域の環境特性に応じた取組を
市民・団体・事業者の皆様と連携して
進めています**

持続可能な住宅地モデルプロジェクト
5区4地区で推進

水素ステーション
6か所整備

企業と連携した
海外水ビジネスの
国際展開

多様な生物を
育む川づくり

約600万人が来場
全国都市緑化よこはまフェア

森を楽しむ
イベントの開催

愛護会などの支援
公園愛護会 2,478団体
ハマロード・サポーター 483団体
水辺愛護会 92団体

まとまりある
緑の保全

毎年約1万人*が参加
野島海岸周辺での体験学習

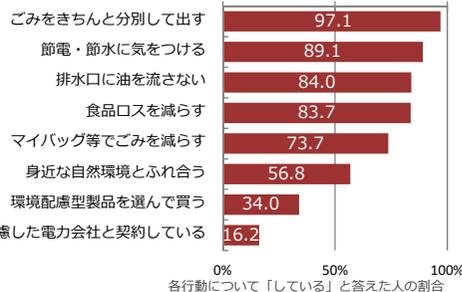
*数字は2017年度末の数値
**の数値は過去4か年（2014～2017年度）の平均値

市民の皆さんに聞きました！

あなたは個人でできる「環境にやさしい行動」をしていますか？



日常的に取り組める行動をしている人が多いね！



2018年度 環境に関する市民意識調査
 ・期間：2018年10月5日～31日
 ・対象：18歳以上の市民3000人
 ・方法：郵送による無記名調査
 ・回答：1,509人（回収率50.3%）

～様々な分野と連携して横断的に取り組んでいます～

環境と人・地域社会

環境にやさしいライフスタイルの実践や地域の環境活動を後押し

自然社会体験プログラムなど自然や生き物とふれあう取組や、スポーツチームと協力したポスター作成などにより、市民が楽しみながら環境行動を実践するきっかけを創出しました。

また、地域で様々な環境保全の取組を行う企業や団体の表彰や活動の支援を行いました。

<主な取組>

- 身近な自然環境の広報
- 自然体験活動の推進
- 動物園等における環境教育の推進
- こども「エコ活。」大作戦！の実施
- 愛護会などの活動支援



こども「エコ活。」大作戦！
参加者：毎年約3万6千人

環境と経済

環境分野の取組による市内経済の活性化と地域のにぎわいづくりを推進

市内企業の省エネ等に資する設備投資への助成、先端技術を使った製品・サービスの創出に取り組む企業への支援、防犯灯などの省エネ対策など、経済の視点・分野での環境の取組を進めました。

また、横浜市の技術を生かした国際協力、地域資源を生かしたシティプロモーションなどを展開しました。

<主な取組>

- 横浜スマートシティプロジェクトの展開
- エネルギー効率向上に資する設備投資へ助成
- 防犯灯や商店街街路灯のLED化
- 市民や企業等との連携による地産地消の推進
- スマートイルミネーション横浜の開催



スマートイルミネーション横浜
来場者：毎年約20万人

環境とまちづくり

環境と調和・共生した、魅力あるまちづくりを推進

スマートなまちづくり、緑花による賑わいづくり、バリアフリー化や徒歩や自転車移動しやすい環境づくりなど、環境側面からも魅力あるまちづくりを進めました。

また、CASBEE横浜や長期優良住宅など環境配慮型の建築物を増やす取組、雨水幹線整備など災害に強い都市づくりを進めました。

<主な取組>

- 都心臨海部の緑花による賑わいづくり
- 持続可能な住宅地モデルプロジェクトの推進
- 徒歩や自転車による快適で楽しい交通環境の整備
- 環境配慮型建築物の推進
- 魅力ある公園の新設・再整備、下水道の整備



自転車レーンの整備
整備距離：22.21 km (2017年度末)